

## 1 事例発表

宇部市立上宇部中学校の取組

「生徒が参画する学校運営協議会の仕組みづくり」

～With コロナの時代を生き抜く子どもたちのためにできること～

### ■藤井校長先生のお話

○コミュニティ・スクールとは

○コミスクが機能しているかどうかを確認するための3つの視点

○上宇部中学校の取組①

- ・目標・ビジョンの共有：「地域や保護者との関わりの中で生徒に自信や誇りを持ってほしい」
- ・目標に向かう協働活動
- ・地域貢献こそチーム上宇部の原点

○With コロナ時代に求められるコミスクの役割

・目標やビジョンの共有を確固たるものにするこ  
と

- ・児童生徒が主役になっているか検討すること
- ・「社会に開かれた教育課程」の実現

○上宇部中学校の取組②

- ・グランドデザインを活用した評価改善
- ・SDGs でつなぐ上宇部の子どもたちの学びと育ち

○上宇部中学校の取組③

- ・スタートは令和2年度の生徒総会

「コロナ禍の今、自分たちが地域のためにできることを話し合う」

- ・マスコットキャラクター「ぜんりょくくん」の誕生

- ・令和3年度の生徒会スローガン 「続く軌跡 創る奇跡 ～善力・前力・全力～」

善力：人のためになる行動をする力（地域への行事参加などを積極的に行う力）

生徒会メンバーがグランドデザインを意識した取組を自ら考えるようになってきた。

令和3年度の生徒総会

「地域貢献のボランティアに生徒みんなが自発的に参加できるようになるためには？」



### ■校長先生と生徒会役員の応答

Q 昨年の ZOOM 生徒総会の感想は？

A コロナ禍でも地域に貢献する上中の伝統を感じた。

A 地域を明るくするために自分の意見をよく発表していた。

**Q 昨年12月の学校運営協議会から君たちの学年の生徒会役員は参加したが、その時の感想は？**

A 学校のため地域のために、私たちの知らないところで、地域の方々が支えてくれていることに驚いた。学校運営協議会で、先輩たちが自ら意見を出して真剣に考えている姿がとてもかっこよくて素敵だった。

A 次回からは自分たちが参加するので不安だったが、自分たちが地域づくりに参加できるといふ楽しみの方が大きかった。



**Q 今年の生徒総会のテーマ（生徒みんなが自発的に地域ボランティアに参加できるようになるためには？）を設定した理由は？**

A 上中ではチャレンジ目標の一つとして地域貢献を進めているが、地域クリーン作戦のボランティア募集の時、希望者が少なかった。人数を増やしたいと思ったことから設定した。

**Q 学校運営協議会で地域の皆さんとミニ熟議をして学んだことは？**

A 私たちと違った視点で考えを知ることができて活動の幅が広がった。

A 自分たちの力では思いつかなかったことばかりでとても素敵だった。もっと地域の方と深く話し合いを進めるべきだと思った。

A 地域の方の意見によって自分が考えたことをより深め、意見をリンクさせることができた。

**Q あなたにとって地域貢献とは？**

A 人との関わりを大切にして、地域のボランティア活動を全力で行うこと。

A 全力で活動できる場であり、みんなが幸せになれる最高の機会

A 地域で僕たちのような若い人が活躍して、地域を明るく熱くすること

## 2 協議

- ・各校における学校運営協議会の児童生徒の参加状況
- ・児童生徒参加型の学校運営協議会についてのアイデアや今後の見通し

■各グループでの協議内容の共有

- ・参加しない生徒のやる気を学校全体でどう広げるか。小学生が参加する学校が増えているが、小中一緒に活動していくと、中学生の姿を見て小学生が中学生になった時に即戦力になる。小中連携で長い目で育てていくと、より学校が盛り上がっていく。子どもの時間と大人の時間を

いかに工夫してその時間を生み出していくかが課題の一つ。学校、地域の実情に合わせて決めていくとよい。

- 学校運営協議会を通して、小中学校の子どもたちや先生たちの意見を聞くことができ、学校の課題や実情が共通理解できた。幼保小の連携も話し合う場があれば問題提起ができる。地域の方は地域愛が強い。これからは、小中校の子どもたちがいかに地域に貢献できるかという声を取り上げる場が必要。学運協の場で地域貢献の抱負を語ることもその一つ。中学校では、部活単位で活動を行うこともあるが、学校の総合的な学習の中で地域の方と考えていくと、授業であるのもう少し多くの子どもたち、普通の子どもたちが地域の熱意を感じられてよいのではないか。



- 複数の小学校区から一つの中学校に行く校区では、まず、どこを目指すのかを同じにしなければうまくいかない。子どもを真ん中にして、子どもがしたいことを大人がどう実現してあげるかを考えるとまとまっていく。そうすると、子どもは主体的に活動するようになる。それが地域を活性化させるもとになる。